

# 「錦絵にみる 東京の冬景色」展

会期:2017年 1月 7日(土)~ 3月26日(日)

会場:< GAS MUSEUM がす資料館>ガス灯館2階「ギャラリー」

## ごあいさつ

GAS MUSEUM がす資料館では、ギャラリー第81回企画展として、2017年 1月 7日(土)から 3月26日(日)までの期間、「錦絵にみる東京の冬景色」展を開催します。

四季のある日本で暮らす私たちの生活は、古来より時候の変化を、日々の生活に受け入れてきました。

なかでも冬の季節は、寒く生き物たちが活動を休める中、人々は年越しの準備や新年を祝うさまざまな行事をおこなうほか、雪が降り積もる風景を「雪見」と称して、「花見」や「月見」のように楽しむなど、冬の季節との付き合い方がありました。

今回の展示会では、人々がおこなう冬のさまざまな行事の様子を描いた作品や、雪に包まれた東京の街の風景を描いた作品を紹介します。

## GAS MUSEUM がす資料館

### ■展示作品一覧

#### 【展示解説】

学芸員 高橋 豊

#### 歳の市

歳の市は年内最後に開催される市で、正月用品が多く商われ、普段開かれる定期市とは異なる位置づけでした。

定期市の開催が少なくなる現在でも、歳の市は人々が集まる寺社の境内や街中で開かれ、年末行事の一つになっています。

作品は、明治の浅草寺歳の市が描かれています。現在の浅草寺歳の市は、羽子板を扱う羽子板市として催されています。

(2016年は12月17・18・19日に開催)



#### 1) 東京大日本名勝之内 浅草観音歳之市

勝山繁太郎 明治24年(1891)

#### 餅つき

現在では正月を迎えるにあたり、行事の一つとして餅つきが行われることが多いですが、かつては祝い事のために餅を用意するために、季節を問わず餅つきは行われました。

明治はじめの東京では、既に餅つきは年末を代表する風物であったようで、作品では12月の画題に取りあげられています。

#### 2) 東京名所十二月月 十二月 海運ばし兜町

昇齋一景

明治5年(1872)

#### 羽子板



正月を代表する遊びである羽根突きは、江戸時代の終わり頃には、庶民の遊戯として広まりました。羽根の玉の部分には「無患子(ムクロジ)」の種が使われ、「子供が患わない」の意味が込められています。

羽子板は遊具の他、押し絵で花鳥や俳優、女性の姿が施されたお正月の縁起物として、現在のくらしの中でも飾られています。

#### 3) 東京滑稽名所 柳橋追羽子の願

歌川広重(三代)

明治16年(1883)

#### 凧揚げ

竹や木を細く裂いて組合せ、紙などを貼って糸を結び、風を受けて空にあげて楽しむ遊具が凧で、中国が起源といわれています。

日本では、江戸時代になると凧の揚がる様子から、隆盛や繁盛を意味すると捉え、子供の遊具だけでなく大人の競技、お店の商売繁盛を意味するものとして揚げたりもしました。

お正月の遊びの印象が強いですが、全国的には5月の春日部や浜松などで、凧を揚げるお祭りが開かれています。

#### 4) 東京名所十二月月 一月 京橋竹がし凧揚げ

昇齋一景

明治5年(1872)



5) 東京滑稽名所 両国広小路鳶の戸満どい  
歌川広重(三代) 明治16年(1883)

6) 東京名所三十六戯撰 亀井戸梅やしき  
昇齋一景 明治5年(1872)

### 出初式(でぞめしき)

江戸時代は、火消が江戸の街の防火に当たりましたが、幕府崩壊後は警察組織に組み込まれ、人命と国家財産を守る組織となりました。

既存の火消が、明治7年(1874)に警察組織の指揮下へ取り込まれると、明治8年(1875)は警視庁の練兵場で出初式は行われました。

戦後消防組織が独立しても伝統は引き継がれ、東京では毎年1月6日に、東京ビッグサイトで東京消防庁による出初式が催されています。



7) 消防組初出階子の里の図  
歌川芳虎 明治9年(1876)

8) 東京名所図会  
一月 警視庁消防組出初の図  
歌川広重(三代) 明治13年(1880)

9) 東京開華名所図絵之内  
八代洲町警視庁出初の図  
歌川広重(三代) 年代不明

### 初卯(はつう)

亀戸天神社境内の御嶽神社は、天神社に奉られている菅原道真の師に当たる、法性坊尊意(ほっしょうぼうそんい)僧正が奉られています。

僧正が卯の日卯の刻に亡くなったことから、「卯の神」と信仰されるようになりました。

特に年明け最初の卯の日は「初卯祭」と呼ばれてにぎわい、「卯槌(うづち)」や「卯の神札(うのおふだ)」が授与されます。

2017年は1月4日が初卯の日に当たりました。

10) 東京名所三十六戯撰 亀戸天神初卯  
昇齋一景 明治5年(1872)

### 福寿草

福寿草は別名を元日草とも呼ばれ、春を告げる花、そして新春を祝う花として、江戸時代より園芸植物として育てられてきました。2月頃に開花する花なので、旧暦の正月の頃は開花時期に当たりました。

(2017年の旧正月は1月28日になります)  
作品では、女性の背景に寒梅が描かれているところから、現在の2月頃に、露地物の福寿草の鉢植えを選ぶ様子が描かれていると考えられます。

11) 東風俗福つくし 福寿草  
楊洲周延 明治23年(1890)

12) 当世十二ヶ月之内一月 最愛之令娘  
熊澤喜太郎 明治24年(1891)

### 東京の雪見の名所

江戸時代の雪見の名所として、天保9年(1838)発行の『東都歳時記』には、「隅田川堤」「三囲神社から長命寺辺り」「真崎神社(南千住)」「待乳山」「上野東叡山から不忍池」「湯島台」「神田明神境内」「御茶の水土手」「日暮里諏訪社辺り」「道灌山」「飛鳥山」「目白不動境内(文京区:現在の場所と異なります)」「牛天神社(小石川)」「赤坂溜池」「愛宕山」「八景坂(大森)」など、高台や川岸の開けた地域が挙げられています。

時代が変わり、明治17年(1884)発行の『増補改正東京案内』では、「向嶋」「根津」「愛宕山」「上野公園」「御茶の水」の場所が雪見の名所として紹介され、明治27年(1894)発行の『東京案内 一名遊歩の友』では、「隅田川堤」「上野」「待乳山」「今戸」「御茶の水」「日暮里」「目白台」「柳島」「洲崎」「愛宕山」「高輪」「御殿山」が取り上げられるなど、雪見の名所も時代とともに変化しています。

13) 東京横浜名所一覽図会 鈴ヶ森雪中  
歌川広重(三代) 明治5年(1872)

14) 東京名所十二ヶ月 十一月 九段坂上雪  
昇齋一景 明治5年(1872)

15) 開化三十六会席 久保町賣茶  
豊原国周 明治10年(1877)



16) 東京三絶景 上野山内之雪  
矢島徳三郎 明治23年(1890)

### 小林清親の描く雪景色

作品では、地面をあらわす色などに白を基調とした色を全体に重ねることで、地面や傘などに雪の積もる様子を表現しています。

例外として作品「本町通夜雪」では、ガス灯や馬車のランプが明るく照らした部分のみ「雪」を描いており、降ってくる雪を光の表現に活用しています。





17) 上野東照宮積雪之図

小林清親

明治12年(1879)

18) 旧本丸雪晴

小林清親

明治12年(1879)頃



19) 駿河町雪

小林清親

明治12年(1879)頃

20) 本町通夜雪

小林清親

明治13年(1880)

21) 東京名勝図会 筋違御もん

歌川広重(三代)

明治 元年(1868)



22) 東京名勝図会

芝神明宮大鳥居

歌川広重(三代)

明治 3 年(1870)

23) 東京名勝図会

数寄屋ばし御門

歌川広重(三代)

明治 2 年(1869)

雪の上野

江戸時代より雪見の名所の一つであった上野の山は、明治時代になると、広大な寛永寺の境内が公園として広く開放され、人々が集いやすい環境となりました。雪の降り積もる上野の山より不忍池を眺める風景や、雪に包まれた山内のさまざまな風景は、多くの作品に描かれています。



24) 東京名所 上野公園雪景

巨泉

明治31年(1898)

25) 東京真画名所図解 清水堂

井上安治

明治17~22年(1884-89)

26) 東京真画名所図解 池の端雪

井上安治

明治14~22年(1881-89)

雪の浅草

東京の雪見の名所に、隅田川東岸にある、三囲神社周辺の墨堤(ぼくてい:隅田川の土手)の雪景色があります。対岸の浅草北側にある待乳山周辺の雪景色も、共に江戸時代より変わらぬ雪見の名所でした。また川に浮かぶ船から眺める雪景色も、明治時代以降の作品においても、雪見の名所として取り上げられています。



27) 東京真画名所図解 浅草奥山図

井上安治

明治21~22年(1888-89)

28) 東京真画名所図解 浅草観音

井上安治

明治14~22年(1881-89)

29) 東京真画名所図解 浅草東門跡

井上安治

明治14~22年(1881-89)

30) 東京三十六景 向島ヨリ待乳山真景

尾関トヨ

年代不明

31) 東京名所 待乳山

渡辺忠久

明治23年(1890)

雪の増上寺

徳川家の菩提寺でもある増上寺は、江戸時代には広大な敷地に三千人もの修行僧がいたといわれています。明治時代以降、激動の時代を迎えますが困難を乗り越え、現在も人々の信仰を集めています。かつての隆盛を今に伝える三門(三解脱門)は、さまざまな時代の作品に取り上げられ、なかでも雪に覆われた風景のなか、朱色の門がそびえる構図は、画題の一つとして描かれてきました。

32) 東京大日本名勝之内 芝増上寺山門之雪景

勝山英三郎

明治24年(1891)





### 33)東京名所 芝増上寺

渡辺忠久

年代不明



### 34)東京名所 濱町ヨリ新大橋ヲ望

渡辺忠久

明治25年(1892)

#### 雪の木場

作者の織田一磨は、石版画を美術表現の手段として取り組み、発展させた第一人者です。

代表作である連作「東京風景」は大正5～6年(1916～7)にかけて制作され、中でも展示作品は、雪の降り積もる夜景を、川面に落ちる建物からの灯りなどを通して、表現しています。



### 35)東京風景 木場雪景

織田一磨

大正6年(1917)

#### 雪の明治神宮 雪の紀尾井町

作者のノエル・ヌエットはフランス出身の詩人で、幼少の頃に歌川広重の版画に影響を受け、昭和初期にフランス語教師として来日しました。

その傍ら東京の街をスケッチして歩くようになり、画集や展示作品にもある木版画も手がけました。その作品には、かつて作者が子供のころ見た、広重の作品を彷彿とさせるものもありました。



### 36)東京風景 明治神宮

ノエル・ヌエット

昭和11年(1936)



### 37)東京風景 紀尾井町

ノエル・ヌエット

昭和12年(1937)

#### おもな参考文献

- 日本風俗史事典 日本風俗学会編 (株) 弘文堂 1979年
- ふるさと東京 江戸風物詩 佐藤 朝文社 2006年
- 明治世相編年辞典 朝倉治彦・稲村徹元編 (株) 東京堂出版 1965年

#### GAS MUSEUM がす資料館 企画展ご案内郵送申込について

ご来館ありがとうございます。これから3ヶ月ごとに開催されます、「GAS MUSEUMがす資料館 企画展」のご案内はがきの郵送をご希望の方は、官製ハガキに ①氏名 ②連絡先住所 ③年齢 ④電話番号 ⑤感想・意見 ⑥今後希望する企画展、をご記入の上、下記の住所までお申し込みください。

次回より約1年間、毎企画展ごとにご案内ハガキを無料で郵送します。

(ハガキ持参で来館された方は、そのまま継続して登録されます)

〒187-0001 東京都小平市大沼町4-31-25 GAS MUSEUMがす資料館「ご案内ハガキ」係

TEL(042)342-1715 FAX(042)342-8057

《当館のお客情報(個人情報)は、当館イベント運営に必要な業務を含め、当館に関連する企画、及びサービスのご案内のために使用いたします。》